

第4学年 国語科学習指導案

指導者 加藤 潤子 秋元 真由美
佐藤 鉄也

1 単元名 ごんぎつね ～自分の考えをはっきりさせて～

2 目標

- 関 : お互いの考えや感じ方に共感したり違いに気付いたりしながら、物語を読もうとする。また、幅広いいろいろな読み物に興味をもち、読もうとする。
- 話・聞 : 最も心に残ったことを、中心を明確にして話したり、友達の話と自分の思いを比べながら聞いたりする。
- 読 : 場面の移り変わりや人物の言動、情景描写の叙述をもとに、人物の気持ちを想像しながら読む。
- 言 : 自分の考えの根拠となった語句や初めて知った語句の使い方を知り、自分の表現に生かす。

3 単元の展開に当たって

(1) 子供の実態

7月に実施した国語科に関する意識調査では、「国語の学習が好き」「どちらかというが好き」と答えた子供が全体の80パーセントを占めており、学習内容に関しては、「物語を読んで内容を読み取る学習」を楽しんでいる子供が多い。読書活動にも前向きで、活動の間や給食後の読書タイムに自分で選択した本を進んで読んでいます。

子供たちは今年度二つの物語文を教材として学習してきている。「三つのお願い」では友達や友情について考え、「白いぼうし」では、ファンタジーのおもしろさに浸りつつ、叙述を押さえて場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読む学習を重ねてきた。登場人物の言動から人物の全体像を思い描くことは、それほど抵抗なくできるようになってきている。また、物語が転換していく場面については、前後の言葉を手掛かりにして人物の表情や周囲の風景などを想像豊かに読んでいます。友達の読み取ったことを聞き、自分の読みを確かにしていく学習には徐々に慣れてきている。ただ、子供たちの感想や読み取り、友達の考えに対して自分の考えを述べたりする力には個人差がある。

「話す・聞く」については、前学期の単元「伝言はまちがえずに」を通して、メモや聞き返しをして、大事なことを聞き落とさないようにしようとする意識や、伝言の内容を短く、必要に応じてメモし、伝えるという意識の高まりが見られる。

(2) 単元について

この物語は、ひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と兵十との心のすれ違いが、美しい情景描写を背景に描かれた作品であり、子供たちの感受性に強く訴え、深く心に食い入る力をもった教材である。そのため、初発の感想をもとに学習課題を決め、登場人物の心情を読み取り、深めていくのに適した教材といえる。さらに、登場人物の心情や行動に共感したり批判したりすることにより、その行動を人間の生き方として考えることができる教材でもある。

物語文では、子供たちは、前年度の「ちいちゃんのかげおくり」や今年度の「白いぼうし」の学習で、個人の学習課題を決め、友達との交流を通して、全員で考えたい学習課題を決めたり、学習計画を立てた上で課題を解決したりする学習活動を行ってきている。そこで、本単元でもこれまでの学習活動を継承しつつ、叙述をもとに小グループで解決できる課題と全体で解決したい課題に精選する。課題に合わせて場や人数を変えて話し合うことにより、一人一人の考えや感じ方に共感したり違いに気付いたりしながら、自分の読みを深めていくことができると考える。

さらに、学習の発展として作者の他の作品に触れたり、その紹介文を書いて交流活動を実施したりすることで、読書への興味・関心を一層広げ、読書に親しむ時間が増えていくこともねらって本単元を設定した。

(3) 支援の方策

本単元では学習シートを活用し、初発の感想や考えてみたい課題などを手掛かりに学習計画を立てることができるように進めていく。課題解決の手立ての1つとして、グループでの話し合いを取り入れる。ここではグループで解決可能な課題（グループ課題）と全体の場で考えたい課題（全体課題）とに焦点を当てて話し合いを進めるようにする。グループ課題については、グループで話し合った結果を尊重する。話し合い活動では、話し合いの手引きを用意し、司会者となる子供や発言する子供が安心して臨むことができるようにする。全体課題については、事前に子供の考えを把握しておき、意図的な指名があることを予告しておく。また、話し合いが深まるように、全員でじっくり話し合い、より多くの考えを吸い上げるように話し合いの時間を保障する。

評価については、めあてに沿った自己評価ができるように振り返りの視点を示すとともに、情意面でも把握できるように時間ごとに評価項目を工夫する。

また、発展学習では、新美南吉の他の作品や動物（きつねなど）が登場する作品を用意し、子供たちが選択した物語の紹介文を書いて交流していく活動を取り入れる。交流の中で情報交換をしていくことで、他の作品へも興味を深め、読書意欲が広がっていくことを願っている。

4 全体計画（総時数 16 時間）

主 な 学 習 活 動	時間	学習形態	評価の観点				
			関	読	書	読	言
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「ごんぎつね」の感想をみんなに話し、学習課題を立てよう</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習課題を設定する</div> <ul style="list-style-type: none"> ・通読して、初発の感想と自分の学習課題を書く。 ・感想を発表し、自分の学習課題について自分の考えをまとめる。 ・グループで話し合い、みんなで話し合いたい課題を決める。 ・言葉の意味を調べ、確認する。 ・全体で話し合いたい課題を決定し、課題1「いたずらをするごんの気持ち」について自分の考えをまとめる。 	6	学級集団学習 (1C1T)					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">兵十やごんぎつねの気持ちや場面の様子を想像して読もう</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題1について話し合う。 ・2～5の場面を読み、学習課題2「くりや松たけを持っていったごんの気持ち」の自分の考えをまとめる。 ・学習課題2について話し合う。 ・6の場面を読み、学習課題3「ごんのしたことに気付いた兵十や、分かってもらえたごんの気持ち」の自分の考えをまとめる。 ・学習課題3について話し合う。 	5	学級集団学習 (1C1T)					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">作者の他の作品や動物の作品を読んで、紹介文を書こう</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">あらすじをまとめて紹介文を書く</div> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の他の作品や動物（きつねなど）が主人公の作品を読む。 ・あらすじをまとめて紹介文を書く。 ・紹介文を読み合う。 	5	学級集団学習 (1C1T)					

5 本時の実際（本時 11 / 16）

(1) ねらい

ごんが撃たれた後の登場人物の気持ちを、前後の叙述をもとにしながら読み取る。

(2) 学習過程（45分）

場所：4年3組 指導者：佐藤 鉄也

学習活動の流れ	教師の主な支援
<p>1 6の場面を読んで、本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>くりや松たけを持ってきていたのがごんだと分かった兵十は、どんな気持ちだったのだろう。 また、やっと分かってもらえたごんは、どんな気持ちだったのだろう。</p> </div>	<p>一人一人が場面の情景を思い描くことができるように、範読する。</p>
<p>2 ごんのしていたことに気付いた兵十や、分かってもらえたごんの気持ちを考える。</p> <p>予想される子供の反応 (兵十について) ・くりをくれたのは、おまえだったのか。</p>	<p>発表のルールとして、考えの根拠になった文や言葉を示しながら発言するように伝える。</p> <p>本時の課題に対する一人一人の考えは事前に把握し、意図的指名による話し合いを行う。また、拳</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・おまえのことを誤解していた。 ・おれは、なんてことをしてしまったんだ。すまない。 ・撃つ前に確認すればよかった。 ・死なないでほしい。 ・これからは、おまえのためにおれが償いをしよう。 <p>(ごんについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっと気付いてくれたんだ。 ・気付いてくれて、ありがとう。 ・おれも、いいことをするときもあるんだよ。 ・兵十と仲良くしたかったなあ。 ・もっと生きたいなあ。 <p>3 振り返りをする。</p>	<p>手による発表も称賛し、その考えを認める。</p> <p>子供の考えを深めるために、子供の考えの根拠となった文や言葉を掲示する。</p> <p>兵十に対するごんの気持ちは、肯定的な立場からの発言が多いので、「ひとりぼっちのごんには、悔いはなかったのかな。」などの切り返しの発問をして、くりや松たけを届けていたごんの気持ちをもう一度考えるきっかけとする。</p> <p>話し合いを受けて、読みの深まりを確認するために振り返りの視点を示す。</p> <p>ごんまたは兵十に対して、話し合いを受けての考えを書くことができるように机間指導する。</p>
--	--

	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	Bに達していない子供への手立て
評価	ごんを撃った兵十の気持ちや、倒れているごんの気持ちを行動描写や会話をもとに考えて書いたり、話し合い活動を通じて友達の人に触れたりして、ごんと兵十の心の通い合いに気付く。	ごんを撃った兵十の気持ちや、倒れているごんの気持ちを行動描写や会話をもとに考えて書いたり、話し合い活動を通じて友達の人に触れたりして、読み取る。	ごんや兵十の行動や気持ちを表している文や言葉に着目するように声を掛けたり、それらの言葉を時系列で並べたりすることを一緒に行うことで、自分の考えをもつことができるようにする。
	評価方法：発言，行動観察，学習シート		

6 研究仮説との関連

課題に対する子供一人一人の考えを事前に把握した上で意図的に指名したり、話し合いをする中で気が付いた考えや意見を取り上げたりして授業を展開することで、話し合いの場が充実し、個の考えが高まるのではないかと。